別紙1

基本計画策定部会で出された主な意見

Ⅰ　家庭・地域における子育て支援

意　見　の　概　要
○学童保育の充実について、箇所数や指導員研修の充実などが反映されているが、学童保育の待機児童数はどうなのか。必要な人が使えるという視点が大切だと思う。 ○一時預かり事業について、既存保育園での実施に加えて、地域のなかでの事業の実施について県ではどう考えているか、基本的な考え方を示してもらいたい。 （→　これまで保育園のみであった一時保育については、法改正により子育て支援センター等でも可能となった。県の考え方については検討したい。） ○放課後児童クラブの指導員は、高齢化しており、先生方の負担が大きくなっている。 ○幼稚園における預り保育の充実との記載があるが、認定こども園の促進と明記すべきではないか。現下の経済情勢では、幼稚園より保育へのニーズが高いが、公立幼稚園にその機能を付加させようとしても、補助対象とならない。国への要望が必要なのではないか。 （→公立幼稚園については、ご指摘のとおり助成対象とならない。ただ、基本計画の素案にもあるように必要なものについては、国への要望や提言も考えてまいりたい。） ○放課後児童クラブは、国・県からもあるが市町村の持ち出しが大きい。支援の充実をお願いしたい。 ○子育て支援サークルを立ち上げることができたのは、元保育士の方の協力が大きかった。是非、元保育士で今、家にいる方などを活用する方策を検討願いたい。また、保育士資格をもっていても、正規職員として採用されない問題もなんとかできないか。 ○様々な子育て支援サークルがあり、お母さんたちがその中から自分にあったものを選んで、いろいろサークルにどんどん参加することが良いと思う。このようなサポートを児童館や市町村職員の方に期待したい。

Ⅱ　仕事と子育ての両立支援

意　見　の　概　要
○一般事業主行動計画とは何かわかるように、内容の例示が必要でないか。 ○私ども団塊の世代は、結婚に憧れがあった。しかし、時代が変わり今の若者からは、「一人が楽」と回答が寄せられる。企業経営者と若者の意識に隔たりがある。結婚しない人たちに仕事と子育てとの両立に関する計画をどのように説明していくのかが経営者任せになってはならない。 ○最近の女性は、婦人科の病院にいっている人が多い。子どもが出来ておめでたいのに、即入院などがある。職場において女性への一層の理解が必要だ。

Ⅲ　子どもの健やかな成長

意　見　の　概　要
○若者に対する結婚に関する機会提供などが盛り込まれているが、若者だけではなく、晩婚域に来ている人についても含めるような表現を工夫するなどして、晩婚の人への配慮もお願いしたい。 ○学生と一定の経験を積んだ女性とでは、結婚観が大変対照的と感じた。女性社員は、これからの自らのキャリア形成、一定の年齢に達すると子どもを産むことへの不安、更に年齢を重ねると親の介護の不安というものが、結婚をためらう主な理由と感じた。 　その一方で 20.30 歳代の男性は男子学生のデータと同じく、草食系男子が多かった。仕事のうえでは問題がないが、女性を前にするとコミュニケーションが取れない。 ○「一人が楽」から「家族をもつことで楽しい」という流れを期待したい。 ○自分にとって、結婚はいいものという先輩の後押しが大きかった。イメージが大切だと思う。 ○施策のターゲットを中高生にまで広げて欲しい。「１４歳の挑戦」の子どもたちの文章を読んでいただければいいが、本当にいいものを得て帰ってくる。 また、一度富山を離れていく若者も多いなか、富山の魅力をもっと中高生に伝えて欲しい。 ○子どものころ母親が働いていて寂しかったという学生の意見は、自分も同じ経験があり、よく分かる。子どもの時期の生活環境の影響は大きいと思う。

その他

意　見　の　概　要
○多様化する働き方の事例として、金沢を発祥とする大企業の方から聞いた話だが、本社の東京、金沢、工場所在地と、勤務地別に社員の子どもの数に差異が生じるという事例紹介があった。 　こうしたことから思うのは、富山県と全国平均の比較のみでよいのか。少子化というのは、子どもを増やそうということだが、その辺を目標指標とすべきではないか。 ○一つの提案だが、今の世代と我々、団塊の世代ではライフステージが違う。そうしたものを何か描きだすことができないか。